

会報

秦野

令和6年4月1日 第58号



寄神社（松田町）

吾妻鏡に、建久3年（1192年）、源頼朝が妻政子の安産祈願のために馬を奉納したと記述がある弥勒寺（波多野）と考えられている。当時、現在の寄地区は波多野荘の中にあった

NPO 法人 秦野歴史おこしの会

巻 頭 言

次代に渡したい「まほら
秦野」



まほら秦野みちるべの会

会長 横山信子

われた市内研修会「峠地区」にも地区住民という立場で参加し、多くを勉強させていただき、有意義だった。

当会は今から十七年前に結成された。会の名称は「秦野は秀でたところ、それらを皆さんにご案内する」という意味をもつ。発足当時の会の目標は、①秦野市内を通る大山道の道標の所在地を確認、記録する。②市内にある大山道の道標を訪ねるマップの作成。③「まほら秦野・大山道」を次代に引き

りやすいようコース設定にしている。また、公民館など各種団体から史跡巡りなどのガイドの依頼も受けている。その折は、たくさんの「まほら秦野」をお伝えしたいと思っている。同様のコースでもその都度新しい内容を探し出し加味するようにしている。参加者から「いつも通っている道なのに知らないことがいっぱいあった。参加して良かった」と言っていただけのがうれしい。

継ぐ。と三項目設定された。当会は資料や地域の方々から様々なことをお教えいただきながら資料を基に、古道・大山道を踏査し、路傍に佇む道標や石仏などを調べ記録してきた。二〇一六年、それらを十一枚の手描きマップにまとめ「次代に渡したいもの」として、十周年記念誌を発行した。現在では手描きマップを発展させたウォーキングマップに取り掛かっている。街歩きをより楽しんでいただきたく発着点を小田急線の駅など初めて訪れた人にもわかりやすいようコース設定にしている。また、公民館など各種団体から史跡巡りなどのガイドの依頼も受けている。その折は、たくさんの「まほら秦野」をお伝えしたいと思っている。同様のコースでもその都度新しい内容を探し出し加味するようにしている。参加者から「いつも通っている道なのに知らないことがいっぱいあった。参加して良かった」と言っていただけのがうれしい。

しかし、当会が行っているガイドは古から連綿と人々の生活が営まれてきた一端に過ぎない。同じ地点でも探れば様々な事柄が掘り起こされる。街中は日々変化し、歴史的建造物も取り壊されたり、建て替えられたりしていく。だからこそ、私は文化遺産を継承し、フィールドワークの大切さを実感する。様々な歴史が刻まれたこの地に縁あって住み、私の人生を豊かに導いてくれる秦野に感謝しています。

昨年十月、秦野歴史おこしの会と秦野ぶらり会、はだの大日堂保存会、当会の四団体の関係者が久々に秦野民俗歴史懇話会に集った。各団体の手段は違っているが共に歴史や文化遺産を学び、伝える活動をしている。お互いの活動に関心を持ち、交流を深め後世に誇れる秦野を残していきたいと思う。

私は時折、秦野歴史おこしの会の総会などに参加し学ばせていただいている。昨年は総会での秦野ささら踊りを初めて観ることができ、講演「柳川村与兵衛と漆あきない―秦野地域と漆―」も初めて聞く内容だった。十一月に行

源実朝公と

波多野氏ゆかりの鎌倉散歩

小澤恵一

令和五年十月十四日に、鎌倉地区で市外研修会を実施した。NHK大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」の影響もあり中型バス二十七名満席の盛況だった。まずは源実朝公と北条政子のお墓がある臨済宗寿福寺へ。寿福寺は鎌倉五山第三位の名刹で正治二年（一一一〇年）源氏一族の菩提を弔うため、北条政子が臨済宗の開祖栄西禅師を京都より招き、源頼朝公の父源義朝の屋敷とされている場所に創建したとされている。山門には実朝公生誕八百年に際し建てた「源実朝公顕彰碑」がある。源実朝公と北条政子のお墓は、本堂裏の「やぐら」と呼ばれる洞穴にある。

子である。京都六波羅探題の役人の時道元禅師と知り合い、その教えに感銘を受け、義重自身の領地越前志比の荘に寺（のちの永平寺）を建て領民に布教させた恩人になる。

次に源実朝公の御首の行方を訪ねる。鎌倉八幡宮の裏手にある平坦な地に、二十五坊僧跡の碑がある。ここは八幡宮に仕える僧坊たちの宿舎であり、公暁の部下たちの根城でもある。建保七年（一一一九年）源実朝公を撃った公暁がその御首を持帰り、飯を食べ三浦義村の迎えを待っていた所と言われる。鶴岡八幡宮参拝後大銀杏を見て、八幡宮境内にある白旗神社に向かう。ここは、ご祭神に源頼朝公と源実朝公が祀られている。拝殿の脇に「実朝桜」が植樹されている。これは平成二十三年（二〇一一年）に秦野市から寄贈されたものだ。隣接する鎌倉国宝館入口



覚園寺にて

に実朝公の大きな歌碑がある。「山はさけうみはあせなむよなりとも 君にふた心わがあらめやも」実朝公の後鳥羽上皇に対する忠誠心を詠んだものであり、朝廷を崇拝していた実朝公の気持ちをあらわしている。これが鎌倉御家人たちの反感をかい、後の悲劇につながったのかもしれない。本日は休館で実朝公の五輪塔を拝観できず本当に残念であった。午前の最後は八百年前の館跡遺構を見る。鶴岡八幡宮三の鳥居のすぐ近くに第三代執権北条泰時の館跡が発掘当時のまま保存されている。

食事後、本日最後の研修場所覚園寺へ向かう。覚園寺は真言宗湧泉寺派の寺で鎌倉歴代執権家の崇拝を集めた名刹である。吾妻鏡によると創建は建保六年（一一一八年）第二代執権北条義時が十二神将の戌神将のお告げを受けて建立した大倉薬師堂を前身とする。建保七年（一一一九年）鎌倉八幡宮での源実朝公暗殺の当日実朝公の護衛役を辞めるようにとお告げをしたとされる戌神将が祀られている。仏像は、室町時代に再建されたもので国の重要文化財に指定されている。

今回の研修会はNPO法人認証記念企画として半数は会員外の参加をいただき、有意義な研修会であった。

映画『掘る女』

上映報告とその後

横溝 彰

令和五年八月九日九時五十分。
映画『掘る女』上映開始十分前、入場口にはまだ行列が続き、上映開始時刻を遅らせるか思案していた。幸いにも関係者のきびきびとした入場誘導で、何とか定刻の上映開始に間に合った。午前、午後の二部制にしてはいたが、想定以上の入場者であった。

話は前年の九月に遡る。私は渋谷のイメージフォーラムという小さな映画館で『掘る女』の映画を観た。観客は



左から、今井さん、松本監督、天野さん
によるトークショー

三十人もいただろうか。映画が始まるといきなり秦野盆地が大写し、秦野だと気づくのに少し時間を要した。私は予備知識が何もないままにスクリーンに向き合っていたのだ。よく見れば画面は新東名高速道路工事エリアの稲荷木遺跡発掘現場にフォーカス。更に現場で指揮を執り説明をしている人に見覚えがあった。「天野さんだ」思わず叫んでしまった。映画のその後の展開は日本各地での発掘現場で頑張っている女性のドキュメント。昔から縄文時代に関心があった私は画面に吸い込まれて発掘作業者の一員になっていた。

この映画を秦野に誘致したきっかけは、遺跡発掘の本を出版した市内在住の今井しようこさんとの出会いであった。市役所のある部署で私の土偶紙芝居を知っていた方から今井さんを紹介された。近くの「どぐうちゃんさぶれ」を販売する洋菓子店に置かれた今井さんの著書に、興味を持っていたので発掘の話で盛り上がった。

その後、この映画完成前から監督の松本貴子さんと知り合いの今井さんから招待券をもらって渋谷の上映会へ臨んだわけだ。鑑賞後、既に映画を観ていた今井さんとこの映画は秦野で観たいし、秦野の人にも観てもらいたいと

の思いが一致。二人は歴史おこしの会の一員であったので小泉理事長に話を持ち掛けて理事会に諮って上映に漕ぎつけることが出来た。秦野市教育委員会の後援を頂き、タウンニュース社からは快く共催の申し入れを頂いた。タウンニュース社の情報発信力に期待したのは言うまでもない。結果として、いくら秦野が出てくる映画といっても泥臭い発掘現場のドキュメントだから二百人も集まればとっていたが、四百数十人という来場者に恵まれ、よかったの思いが込み上げてきた。

映画の最終場面には、国宝に指定されている「合掌土偶」が登場、話は発掘を手掛けた二人の女性の物語である。発掘当時の様子をドキドキそしてワクワクした思いを熱く語りあっているシーンが印象的であった。この土偶は青森県八戸市の是川縄文館で見られる。

映画終了後の来場者のアンケートや寄せられたメールでの反響を集約すると、満足とやや満足の合計が九割を超えていた。また映画終了後の松本監督、映画にも出演の秦野歴史博物館の天野さんそして今井さんの三人のよるトークショーが良かったという意見も多く聞かれた。アンケートの代表的な意見には「稲荷木遺跡からのスタートに興

味が湧き、遺跡からの山々は縄文人も同じものを見ていたかと思うと、身近に感じられて胸が熱くなった」との意見が寄せられた。子どもの来場は少なかったが「歴史上の発見はいっぱいあるんだ」「どんなものが出たかを知れてよかった」という意見が。中には「教育委員会の後援だから夏休み中の多くの子どもたちが観られたらいいのに、これでは秦野の文化が育たない」といった辛口の意見もあったことを添えておきたい。

市内の縄文遺跡といえば、同明遺跡に代表される平沢遺跡や太岳院遺跡といった室川沿いの遺跡が知られていたが、新東名高速道路の工事で大山・丹沢山麓でも縄文時代や弥生時代の集落



多くの方にご来場いただきました

跡が発掘されて秦野における古代地図が大きく拡大したことになる。私たちは縄文時代の遺跡というと、長野や山梨の遺跡に目が行きがちであったが、ふるさと秦野に広範囲に縄文の文化が花開いていたことを思うと嬉しくなってくる。

私はこの映画を機に、もっと縄文文化を掘り下げてみたいと思い、世界文化遺産にとりあげられた北東北縄文遺跡群に二回に亘り足を運んだ。現地は秦野の室川のような水辺に面したところもあれば、稲荷木遺跡のように高台に大きな石を運び込んだ環状列石を何か所も確認した。また北東北の遺跡からは遮光器土偶が多く発掘され、博物館や資料館ではそのユーモラスな表情に見入ってしまった。そして遮光器土偶の体軀をよく見ればその各部位が里芋に似ているとの説に頷いてしまう。遮光器土偶は千年程で消えたとされているが、東北地方を襲った寒冷化で里芋が栽培できなくなったことと符合するとの説も説得力がある。私の経験では、秦野でも里芋を翌年植えつける種芋は、寒さ対策で深く掘った穴に藁でくるんで埋めていたことを思い出す。更に遮光器土偶の出土地である東北では秋の芋煮会の風習が残り、イベント

として注目されている。このことは寒冷化から解放され、里芋が収穫されることの喜びがみんなに受け継がれているように思われる。私はこの映画を機に秦野歴史おこしの会の一員として、縄文時代に思いを馳せて、「縄文文化の街・秦野」としての発信を続けていきたい。今回は今井さんをお願いして従来の観光パンフレットにない多方面の情報を入れた「はだのいにしえBOOK」を作成、来場者はもとより他の行事でも配布し好評を博している。



上映が無事終わってスタッフ勢ぞろい

最後になりますが、今回の企画に賛同頂き共催を引き受けて頂いたタウンニュース社と後援の秦野市教育委員会にお礼を申し上げます。

市内地区研修会（峠地区の歴史と文化を訪ねる） 古谷信行

令和五年十一月十日（金）、十七名で市内峠地区研修会を実施しました。

○峠の鉱山跡

峠地区のバス停から徒歩で三十分程のところには鉱山の採掘跡があります。秦野市教育委員会の現地の案内板によると、昭和十年から昭和二十三年頃まで石膏や黄鉄鉱を採掘した鉱山で、三丸鉱業洪沢鉱山といい、金銀の採掘を目的に始めたが産出されなかったため、主に石膏が掘られたとのこと。最盛期には約十人の従業員がおり、年間二千万もの石膏を掘り出していた。産出する石膏の周りには粘土層があり、西小学校の図工の時間にこの粘土を使ったこともあったようです。採算がとれなくなったことや、台風で市見川の水が坑道に流れ込み復旧が困難になった事などが原因で昭和二十年代半ばには閉山したといわれているとのことです。

○真静院 石造六地藏尊像（市指定重要文化財）

千村の泉蔵寺の末寺。平成十三年に二度目の火災に遭い現在本堂や庫裡な



市の重要文化財に指定されている
石像六地藏尊像

どは何もありませんが、昭和四十年に秦野市の重要文化財に指定された石造六地藏尊像があります。六地藏尊像は外に安置されているため、お参りは自由にできます。

「この六地藏のうち一体は南北朝時代、他の五体は何れも室町時代の作、又これらの内、鏡、団扇太鼓を持つている者は他に例のない特異なものである。表現は素朴であるが、古い時代の小さな石像が六体一組として揃って保存されている点においても希少で「峠」が古くから交通の要衝であったことを知る貴重な資料である。」（秦野市教育委員会）

○百四十年続く念仏 一空上人の掛け軸見学

峠地区の真静院に薬師堂があり、地元住民が集まって先祖の供養や家内安全を願って念仏講を行ったのが始まりだと伝えられています。また、掛け軸には《南無阿弥陀仏》と書かれており唯念の花押があります。

現在は講が行われなくなってしまうため、掛け軸は自治会で管理されており、念仏も録音テープで聞かせていただきました。

○峠地区の共同墓地

峠地区では明治六年、地域住民三十軒のうち三十軒が神道に改宗しました、残り三軒は当時寺の檀家総代であったため後に改宗したとのこと。今、墓地は地域を見下ろす高台に共同墓地としてあります。神道では墓地を奥津（おくつ）城（き）と呼び、卒塔婆を祭標（さいひょう）と言うそうです。また戒名を諡（おくりな）といい神様の元へ送るといふ事だそうです。昔は十センチ角位の木柱の祭標が立ち並び、それに諡が書かれた白い布が結ばれ何本も立ち並んでいて、夕方などにそこを通ると風になびいて怖かったそうです。今回の地区研修会で峠地区についていろいろな事を知る事が出来ました。

箱根の旅 御神火祭・箱根元宮例祭に参加して思うこと

戸口あや子

この度は、相模神仏奉賛会会長の星秦山様（秦野歴史おこしの会所属）の御案内により、第三十四回箱根神社献楽会、令和五年十月二十三日（月）二十四日（火）に尺八献楽奉納に当会員数名と参加させていただきました。

箱根山は、神奈川県静岡岡県境にある複式火山で、成り立ちは約四十年前の噴火活動に始まります。大きな特徴は、中央部にある大きなカルデラ地形です。カルデラ内は、約五万年前からの噴火によってできた神山（二四三八・二m）、駒ヶ岳、上二子山、下二子山、陣笠山などからなる中央火口群、そして約三千年前、神山北西斜面の噴火に伴う土石流が早川の上流部を堰き止めて誕生した芦ノ湖で形成されています。芦ノ湖は富士の秀峰を投影し、古から「権現御手洗の池」と称えられています。箱根山の縁起、由来の一つとして、和歌の世界では「ハコ」（筥、箱函）とは大事なものを、人に見せてはならないものを収めておく蓋のある入れ物を言いますが、箱の中に魂を封じ込めたり人を幸せにする力をしまったり

できるという神聖なものと考えられています。

箱根神社の起源は、箱根山の古代山岳信仰に発すると言われています。奈良朝の初期、今から約一二五〇年前に万巻上人はご神託により里宮を建て、箱根三所（神山の神々、駒ヶ岳の神、冠ヶ岳の神）権現を称え奉り、仏教、とりわけ修験道を習得しました。万巻上人は、沙弥智仁の子として奈良に生まれ、幼少時から仏門に入り二十歳で出家、日課として「方広経」を学び、一万巻を看閲したことから「万巻上人」と呼ばれるようになりました。また、権現とは日本の神は仏や菩薩が権（かり）の姿で現れたものと考え、神の称、神仏習合の時代に盛んに用いられた神号の一つです。万巻上人は奈良時代に我が国の神仏習合の先駆者、神と仏を結び付けた聖僧と言われています。

箱根神社の御祭神はニギノミコト、ヒコホデミノミコト、コノハナサクヤヒメノミコトの御三神です。神社の紋は三ツ割菊です。男神座像、女神座像（平安時代の関東地方最古の御神像）、万巻上人座像（平安時代の東日本最古の肖像彫刻）が重要文化財に指定。なお、この宝物は、神奈川県立歴史博物館の「足柄の仏像特別展」にて令和五

年十月から十一月にかけて展示され、当日はお留守でしたが、この旅の前に当館に出向き会ってまいりました。とても感動しました。

箱根神社は、平安時代、源頼義、鎌倉時代源頼朝、室町時代足利氏、戦国大名の北条五代、そして徳川家康に信仰され、江戸時代は東西の交通の要となり、庶民信仰へと変貌しました。毎年十月二十四日には箱根元宮例祭、御神火祭、世界平和祈願祭が行われています。当神社に相模神仏奉賛会の尺八献楽、長い間の御参加感動いたしました。秋の旅を思い出し、秦野からなめる箱根連山への思いを募らせます。歴史を学ぶとは、その場所に向いて知識を得ることと実感いたしました。



駒ヶ岳山頂で執り行われた御神火祭

堀西 須賀神社の社号幟

岩田 宇一



須賀神社社号幟

秦野市堀西地区に鎮座する須賀神社で例大祭に掲げられる社号幟には、「権大教正 源 権田直助 謹書」と記されています。権田直助は、文化六年（一八〇九）武蔵国入間郡毛呂本郷（現・埼玉県入間郡毛呂山町）に生まれ、二十九歳で平田篤胤の門人となり、明治六年に明治政府より大山阿夫利神社初代宮司として任命された方です。

現在の幟は昭和四十二年に更新されたものですが、この幟を作る時、権田



原書の一部

直助が揮毫した原書を基に作られた事がわかりました。その原書は地元の旧家に今も保存されています。この原書には明治十四年夏六月と記されています。須賀神社の氏子と権田直助翁とどのような関係があったか分かりませんが、貴重な歴史文書として末長く残してもらいたいと思います。

須賀神社の例大祭は毎年七月に行われますので、この社号幟を是非、見て頂きたいと思います。また、この神社には秦野市では唯一と思われる山車がありますので、合わせて観覧される事をお勧めします。

★新入会員です よろしく

金子 祥之 南地区
吉野 大輔（サクララ）南地区
神倉 寛明 西・上地区
横井 孔心 市外

蓑毛大日堂の二王像の修復始まる



令和五年（2023年）から修復作業が始まりました。お戻りは4年後の予定です

◆表紙の題字

「善哉（よいかな・よきかな）」

揮毫 蓑毛山寶蓮寺

三十三世住職 東島光明師

『寶蓮寺真名縁起』によれば、聖武天皇の命を受けた行基と良弁が、伊勢の皇大神宮に赴き大仏造立の願いが叶った時、歓喜して舞い、歌い、言ったことばが「善哉、善哉、時哉、時哉」である。・会報第三号から要約

◆総会・講演会のお知らせ◆

総会

令和六年五月十一日（土）

午後一時～

場所 秦野市立本町公民館

講演会（総会終了後）

演題 「秦野の古文書について」

講師 矢内昭夫 先生

元高校教諭・古文書講座講師

※講演会終了後、会員対象の懇親会を開催します。

発行責任者

秦野市羽根七〇七

小泉 孝 宅

電話 〇四六三―七五―〇〇六七